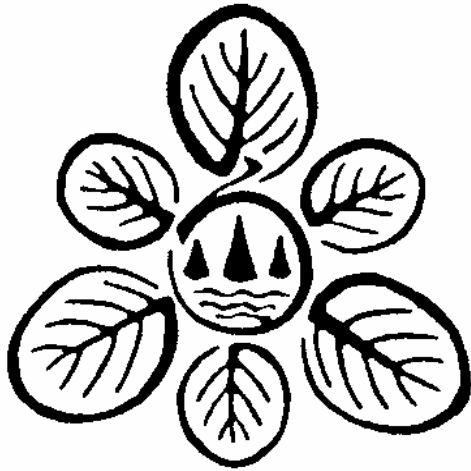


今の校章は、どのようにして作られたのでしょうか？



古い校章は、桜の花の中に「野」と書かれたものでした。しかし、新しく今の校舎が建てられた昭和 32 年（1957 年、今から 52 年前）に、校旗を新しく作らなければならなくなりました。そのとき、校章も新しく作り直すことになりました。

その時の教頭先生の樽谷一雄先生が、今の校章のデザインを考えられました。樽谷先生は、後に野村小学校の第 19 代の校長先生（昭和 39 年～昭和 41 年）になりました。

【 校章にこめられた願い 】

- ・まわりに「萩」の葉を 6 枚並べて、その葉で、「のむら」の「の」を字の形を表している。
- ・大伴家持の万葉の歌に、「石瀬野に 秋萩しぬぎ馬並めて 初鷹狩りだにせずや別れむ」と詠まれているように、今の野村小学校がある場所は、家持が毎年鷹狩りに来ていたところで、一面に萩が生い茂っている野原だったと言い伝えられている。
- ・「の」が六つで「のむ」、真ん中の円の形をした「ら」で、「のむら＝野村」と読む。
- ・「ら」の中には、小学校の「小」を山の形で表してあり、この山は「立山」である。野村小学校は、市内の小学校で一番立山に近い学校である。
- ・立山の下にある三本の波線は、「庄川」を表している。
- ・立山と庄川は、私たちにふるさとを守ってくれている偉大な自然であり、この校章には、その偉大な自然に対する感謝と尊敬の気持ちがこめられている。